

## 記念日のいわれ No.4

### 聖体祭 (Corpus Christi)

「聖体祭」は、カトリック教会（キリスト教）の重要な儀式の一つです。「ペンテコステスの日曜日（パスコア（復活祭）から数えて8つ目の日曜日）」の次の木曜日に行われます。パスコアは、春分の日を過ぎてから最初の満月があったあとの日曜日です。

イエス・キリストは、十字架にかけられる前に12人の弟子たちと食事をしました。みなさんよくご存知の「最後の晩餐」です。イエスは、弟子たちを前にパンをとって「これは我が肉なり」・ぶどう酒の杯をとって「これは我が血なり」といいました。これを記念して祭礼を行うようになったそうです。後にウルバーノ四世法王が、この祭礼を「聖体祭」として定め、クレメンテ五世法王によって全教会の祝日とされました。「聖体祭」は、聖体（キリスト）の秘跡を称え、聖体に対する信者の真心を呼び覚ますために設けられた日なのです。

多くの都市で教会までの道を、花やおがくずなどを使って描かれたキリスト教に関する絵で飾ります。その上を十字架を先頭にして、侍者・白衣の少年少女・司祭・修道者・信者の順で長い行列を作ります。これを「聖体行列 (Procissão)」といい、この儀式は、この木曜日か次の日曜日と決められています。

サンパウロ州内のイビチンガ市 (Ibitinga) では本物の刺繍で、イトゥ市 (Itu) では彩色した大鋸屑やコーヒー豆の殻で、エンブー市 (Embú) では花で道路を飾り「聖体行列」が行われるのが特に有名です。



(左の画像はイトゥ市での様子、右の画像はキリストが「これが我が肉なり」と語っている Juan de Juanes の「最後の晩餐」という描画です。)